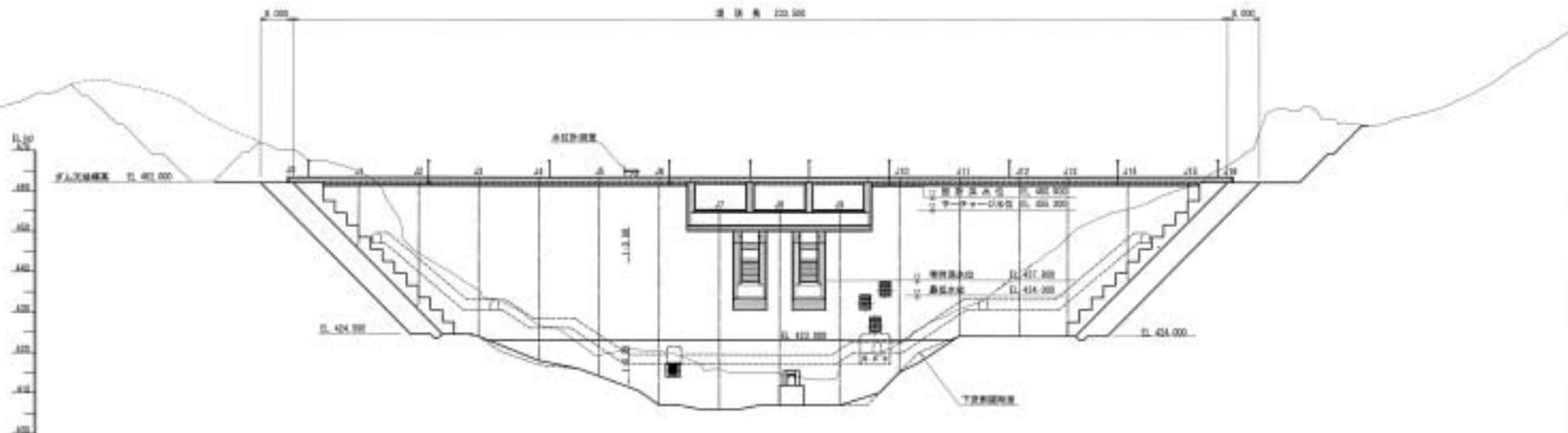


ダム上下流面図 S=1/1000

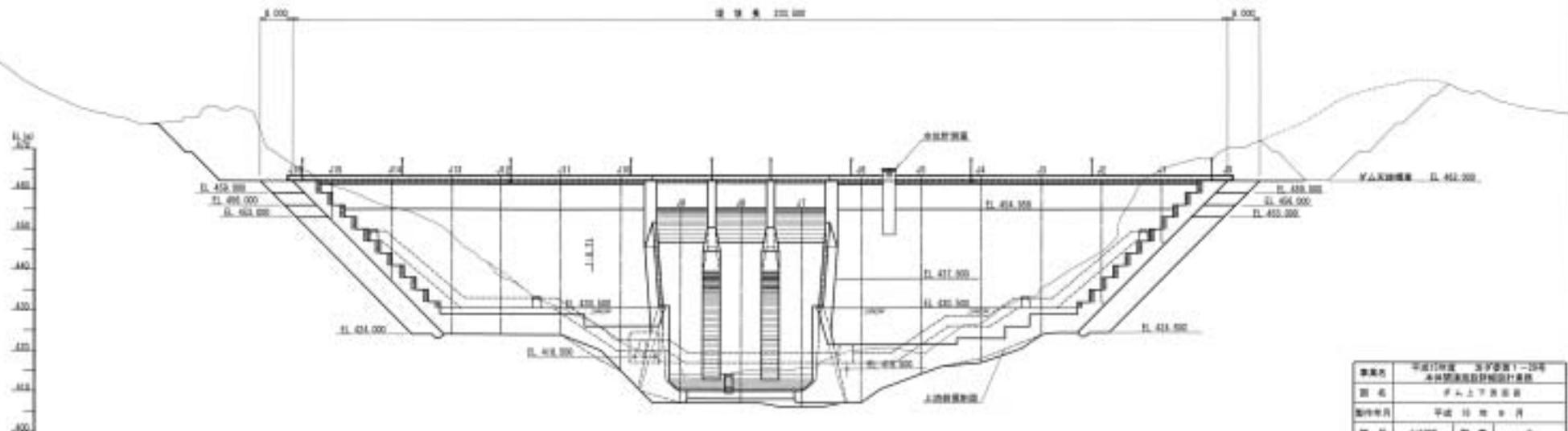
上流面図

縮尺 200/1000



下流面図

縮尺 200/1000

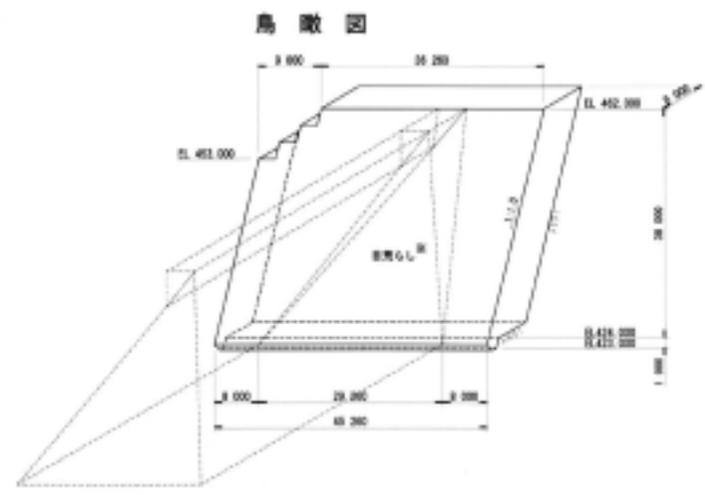
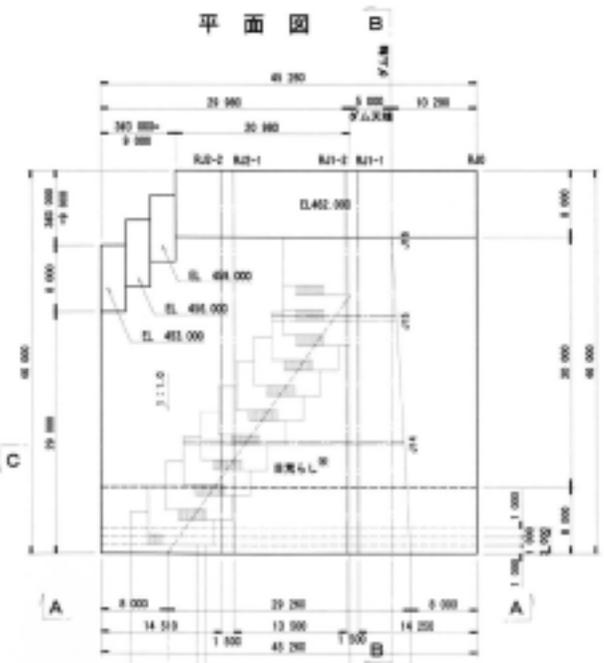
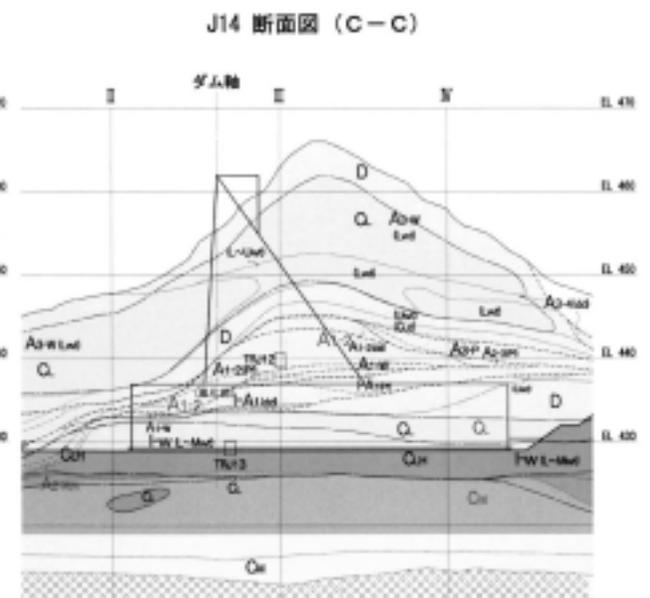
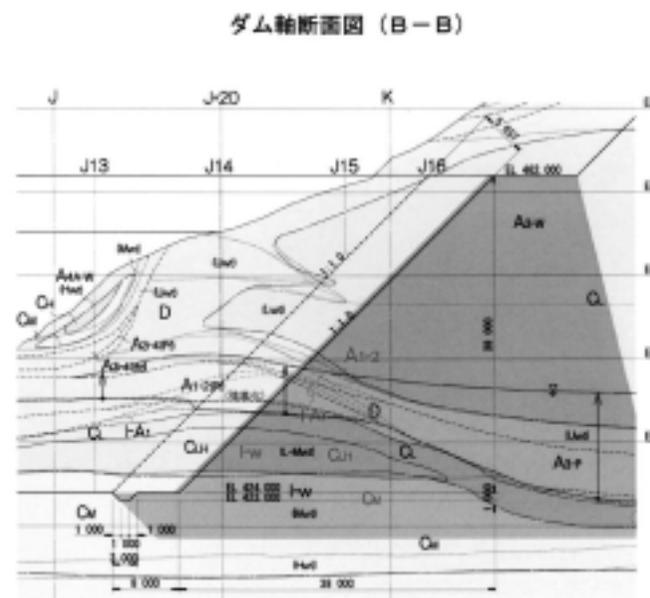
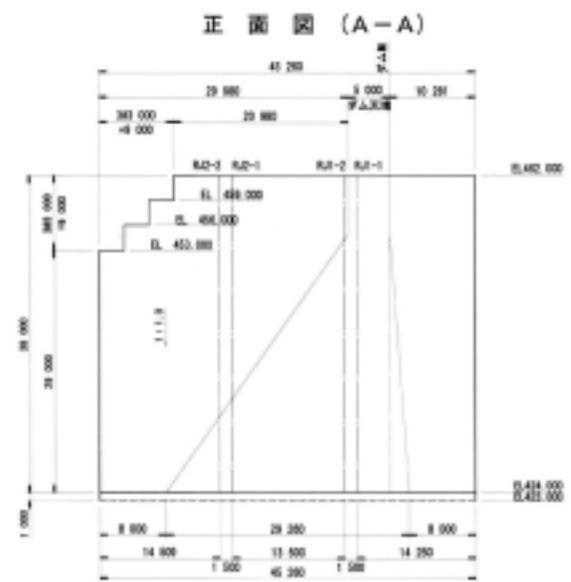


事業名	平成17年度 国土交通省1-2号 本州関東地方技術設計事務所
図名	ダム上下流面図
図中年月	平成 17 年 0 月
縮尺	1/1000 図 番 7
大 小 冊	本館ダム建設事務所
株式会社	建設技術研究所

※基礎図面は、図面に、添削等による変更は、ダム完成図面以上は、ダム組上の図面を参照して下さい。

図 - 3.2.4 ダム上下流面図

右岸造成アバットメント一般図



凡例

- (点線) 設計スケッチと設計箇所
- (実線) 設計決定箇所
- 地下水位 (水頭線)
- 基本の透水層下部
- 基本分布荷重

色 調	地 質 区 分
■	D 礫 層
■	Cu 礫 層
■	Cw 礫 層
■	Cl 礫 層

※ ダム軸線及びワーキング面側の造成アバットメント断面に於ては、図示した断面とする。

図 - 3.2.5 右岸造成アバットメント一般図

3.3 西之谷ダム

諸 元

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 1) 事業主体 | 鹿児島県 |
| 2) 所在地 | 鹿児島県鹿児島市西別府町西之谷 |
| 3) 水系 | 新川水系新川 |
| 4) 目的 | 洪水調節 |
| 5) 堤高 | 21.5m |
| 6) 堤頂長 | 135.8m |
| 7) 堤体積 | 32,300m ³ |
| 8) 上下流面勾配 | 上流面 鉛直(フィレット 1:0.6) ・ 下流面 1:0.78 |

造成アバットメント

本ダムの基盤岩盤は、新第三紀から更新世に堆積した海成から汽水性の堆積物層である軟岩の城山層に求めている。この城山層はほぼ水平に分布し、地山深部においても高まりがないため、ダムの両袖部では基礎岩盤に直接着岩できない地質層序となっている。ダム本体は両袖部とも、城山層の上位に分布するシラス層に取り付けざるを得ない。

このことから当初計画では、城山層を基礎岩盤とする箱型連続地中壁工法を採用し、ダム本体はこの箱型連続地中壁に取り付ける計画としていた。本工法は所要の安全性を確保するための構造規模が大きくなるとともに施工が煩雑となり、また、施工工程も長期化するという課題がある。これらの問題点を解決すべく、経済性、施工性などに配慮した造成アバットメントを提案し、採用に至った。

造成アバットメントの概要

	左 岸	右 岸
型 式	傾斜型	傾斜型
最 大 高 さ	14.0m	13.0m
置 換 え 体 積	1,288 ³	1,118m ³
左 右 岸 合 計	2,406m ³	
備 考	背面勾配 1:0.6	背面勾配 1:0.6
基 礎 の 岩 質	溶結凝灰岩	
基 礎 の 岩 級	CM級	CM級

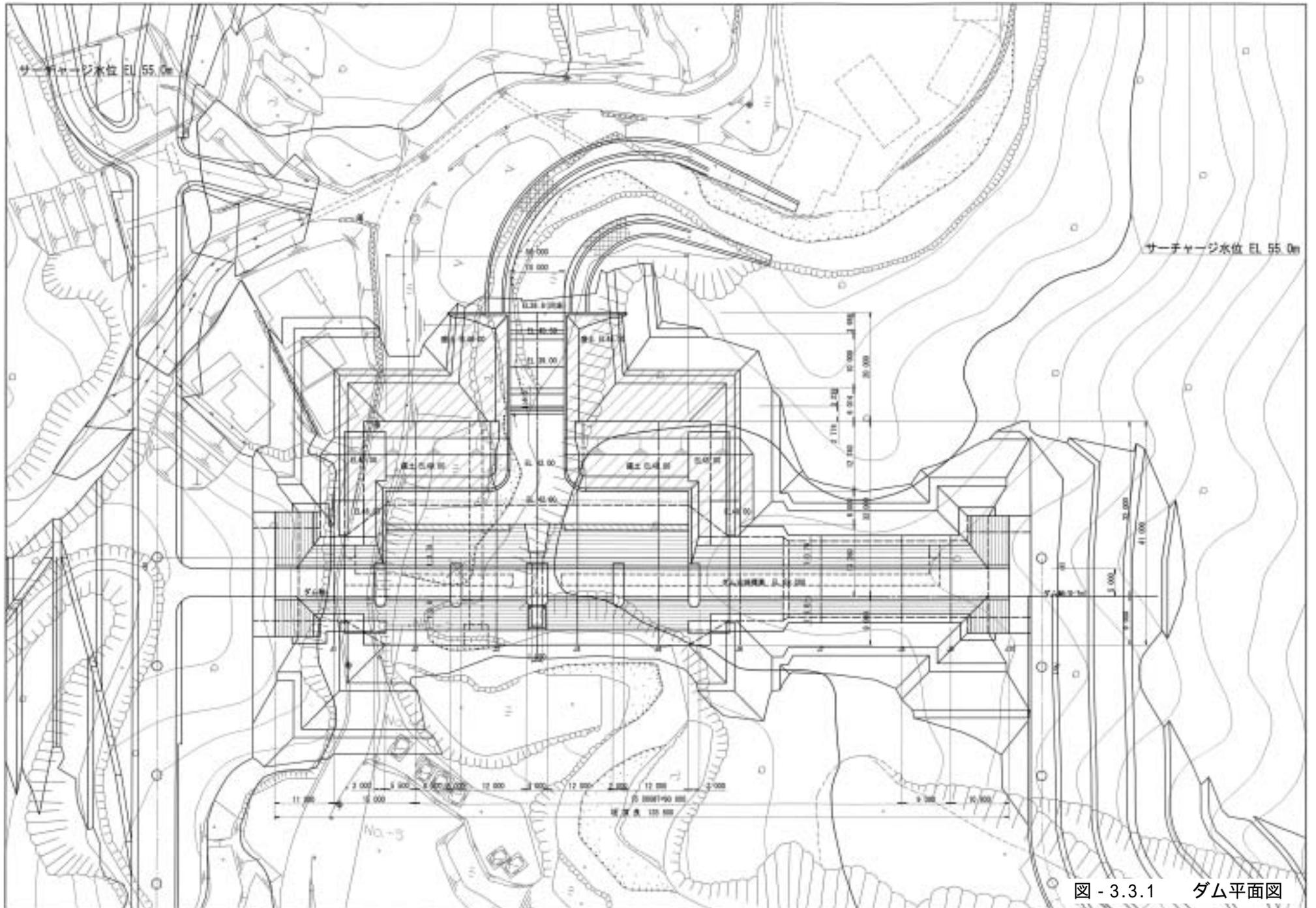


図 - 3.3.1 ダム平面図

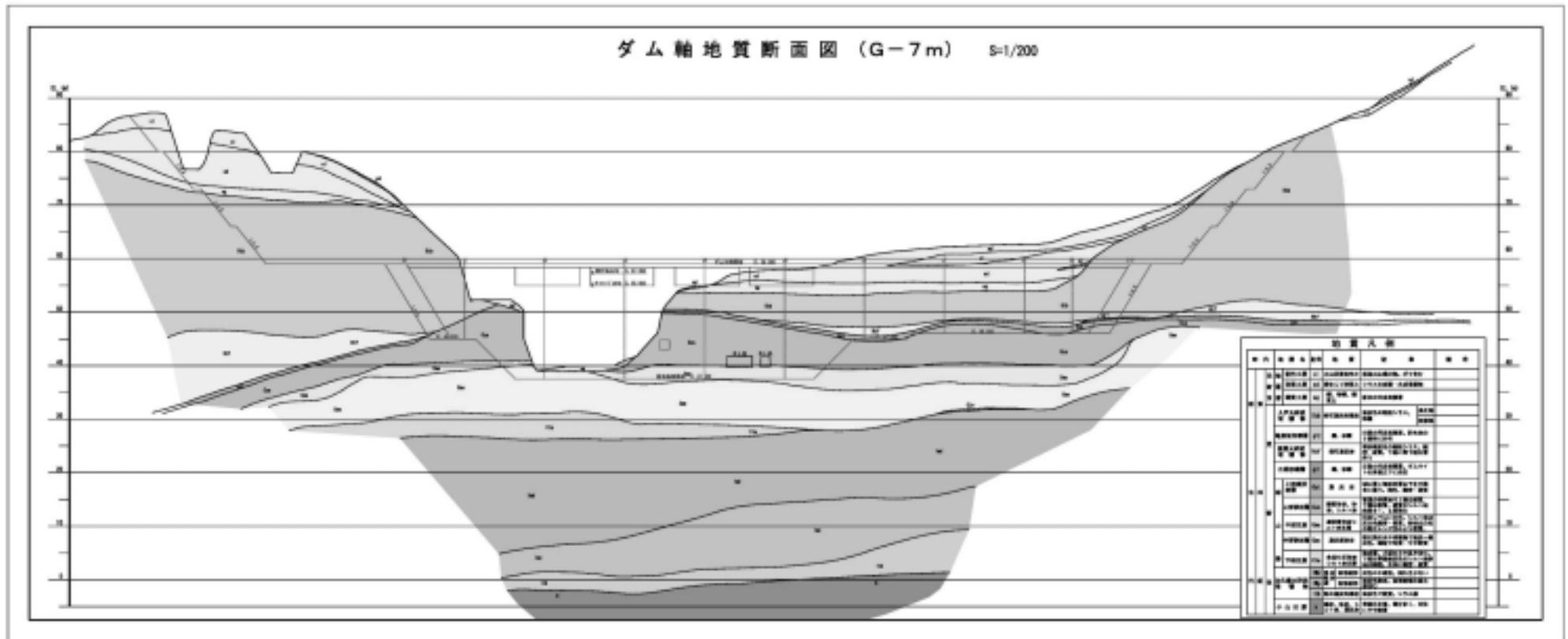


図 - 3.3.2 ダム軸地質断面図

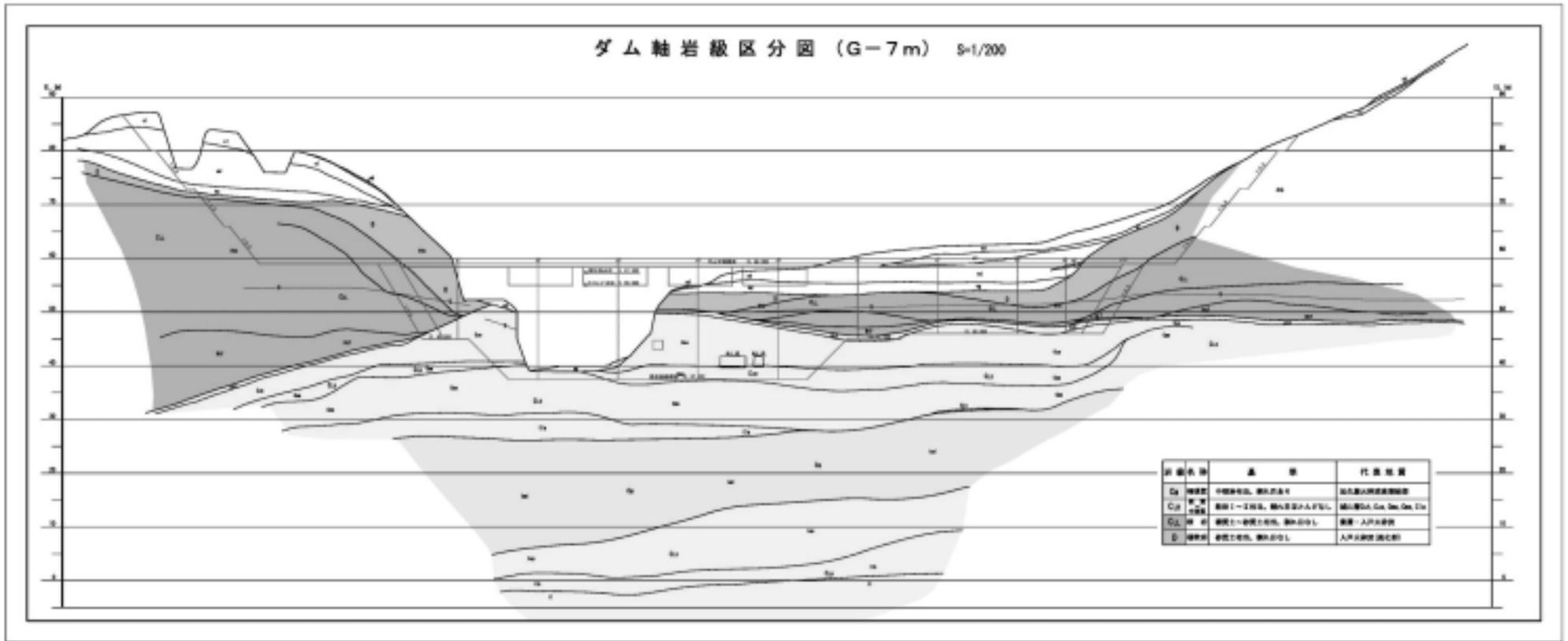
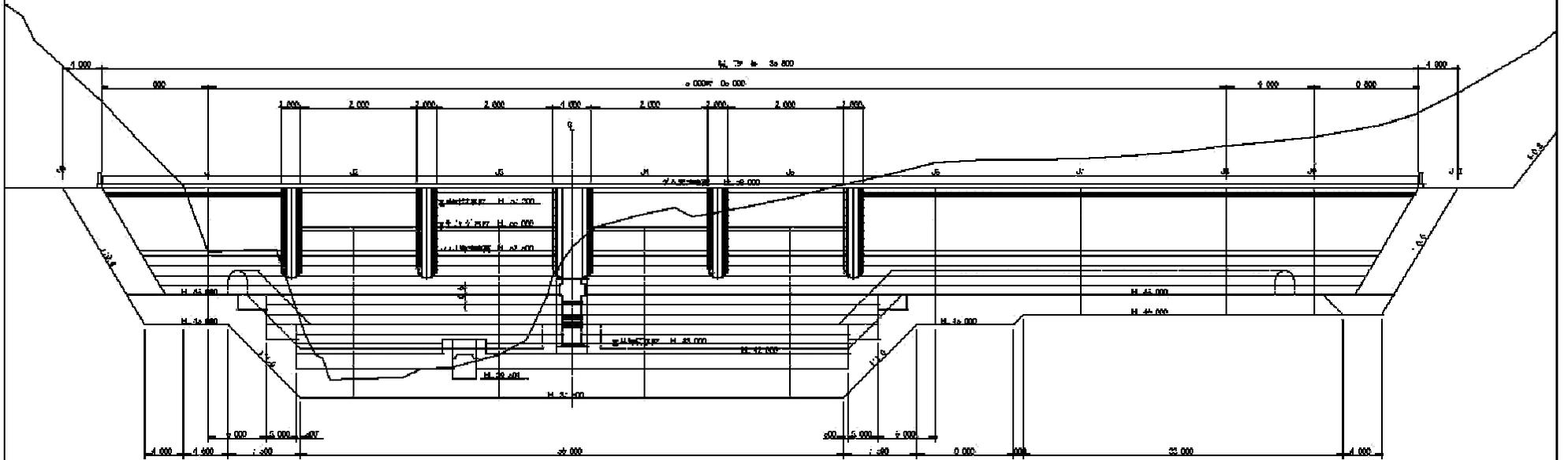


図 - 3.3.3 ダム軸岩級区分図

ダム上流面図 S=1/200



3 - 18

図 - 3.3.4 ダム上流面図

